



あおぞら & つくしんぼ

SSKP

つくつく通信

No.100

編集～NPO法人はらっぱ 東京都町田市小川 1511 TEL/FAX 042(796)8468

100号でおしまいです。おれいです。またこんど。。

1996年7月、『フリースペースつくしんぼ』の活動開始から1ヶ月遅れて、私はこの『つくつく通信』を創刊しました。

あれから…足かけ17年になります。多い年度には年11回、少ない年にはわずか年2回だけ。まちまちの発行回数を毎年重ねて、なんとかやっと100号に達しました。100号までの継続は、数年前からの私にとっての目標地点でもありました。

* * *

障がい児の親の単なる自主グループのひとつに過ぎない『フリースペースつくしんぼ』が“運営費＝補助金”を得るためには、施設としての知名度アップが必要とのこと。そこで私は会報紙を発行し、ホームページを開設することにしました。

当時はまだ福祉作業所等から発行される通信は、ワープロづくりか手書きが当たり前の時代でした。

そこで私は、目立つようにとWindows95の入ったパソコンを購入。使い方もわからぬままにDTPソフトなるものも仕入れ、試行錯誤の末、B4版のちよつと洒落た“新聞っぽい通信”を作成してみました。印刷部数は1000枚。当然モノクロ。公民館のリソグラフを使わせて貰って印刷しました。

市長や助役や市議会議員サンたち、市内にある福祉施設や小中学校等々に、ひたすら通信を配りまわりました。公民館、ボランティアセンター、郵便局等では窓口にも置かせて貰いました。

意表をつく壁新聞型レイアウトとブラックジョーク満載の『つくつく通信』はやたらと目立ち、評判も上々。当時の〈広報まちだ〉の編集トップの方が『つくつく通信』を広報づくりの参考にしてたんだよと言ってくださったのが、やたら嬉しかったりして……。

かなりアブない仕上がりの通信でしたけど、文章の

説得力にはそれなりに自信はありました。だって当時の私の本業は脚本家……。(^o^)

当初の私の記事はというと、補助金を出してくれない町田市の悪口ばかり。それを読んだ当時の一人の市議サンが怒り心頭、障がい福祉課の窓口に怒鳴り込んできたことがあったそうです。

「福祉施設の人間にこんなこと書かせるな!」と。

すると、窓口の福祉課職員(実は私の友人だったのですが…)は平然とこう答えたそうです。

「すみません。その発行元の『つくしんぼ』ってのは、福祉施設じゃなくて単なる親のグループなので、福祉課の管轄ではありません」と。

そしたら、その議員サン、捨てゼリフのようにこうおっしゃられたそうです。

「だったら補助金出して黙らせろ!」と……。

* * *

ホームページの公開は、『つくしんぼ』を全国的に有名な放課後施設に押し上げてくれました。補助金が貰えずに哀れな活動を続けている施設として……。

当時はホームページを持つ福祉施設など皆無に近く、検索サイト「ヤフー」では優良サイトを手作業で



ひとつずつ登録していた時代。ロボット検索の技術が登場する以前なので、ゴミサイトが引っかかることもありませんでした。

その「ヤフー」が『つくしんぼホームページ』を“日本初の障がい児の放課後活動施設のホームページ”として登録してくれたことで、一気にブレイク。たくさん質問メールがつくしんぼ宛に届くようになり、私は嬉々として毎日何時間もかけてメール処理していました。まだ補助金すら貰えていない放課後施設の代表にもかかわらず、「どうやったら放課後活動の施設をつくれますか?」などという質問に偉そうに答えていました。なんとも恥づかしい話です。

当然、『つくつく通信』の紙面もアップしていました。でも、無線 LAN はおろか、常時接続すらなかった時代です。ネット接続は電話モデムでピーピーガーガー繋いでいた時代。PDF ファイルなんて便利なものありません。データが重いと表示までに何分もかかってしまうので、『つくつく通信』の紙面は 16 色のグレースケール GIF の画像データにして、1 ページあたり 80 kb を超えないよう注意して掲載していました。

ホームページを観て、「つくしんぼに補助金を出してやれ!」とわざわざ町田市役所に電話をかけてくれた地方の方もいたとのことでした。

* * *

何年間も実績を積み上げて、それでも施設として認めて貰えるかどうかわからない以前の状況から一転、今は制度も変わり、放課後活動の施設など呆気ないくらいに簡単につくってしまう時代です。

私が『つくしんぼ』を始めた頃もまた、頑張っても頑張っても補助金を受けられない時代でした。

『つくしんぼ』が行政からの補助金を受けられるようになったのは、活動開始から 2 年後の 4 月から。



既に『つくつく通信』は 22 号まで進んでいました。

補助金認可施設になった途端、それまで過激さがウリだった『つくつく通信』の記事は、一転してトーンダウン。おとなしくなっていました。

だって、うっかり下手なこと書き過ぎて、また市議さん怒らせて、やっと貰えるようになった補助金が貰えなくなったら一大事ゆえ……。

少ないながらも補助金を受けられるようになって、はじめて『つくしんぼ』には専任の職員を置けるようになりました。

それから 3 年、52 号からは通信の執筆と編集をお母さんたちにバトンタッチしてみたものの、保護者の努力にも無理があり、『つくつく通信』の作成作業はいつしかまた私の手に戻ってきてしまいました。

* * *

活動開始から 10 年目のこと。

最低でも NPO としての法人格を取得しないと補助金が貰えなくなるという噂 (結局それは本当に噂に過ぎなかった) に振り回され、『つくしんぼ』の生えている場所だからということで団体名称を『はらっぱ』と決め、2006 年 2 月に東京都に NPO の取得申請をしました。その申請の経緯を記事に書き、77 号の通信を発行した直後のことでした。

春休みの途中の 3 月 28 日。毎年恒例になっていた『つくしんぼ』の年度末のお楽しみ会の終了後、私の長男・ヒロキは一人で散歩に出かけ、その途中、横浜線の線路内に入ってしまう、電車に接触し、二度と帰って来てくれない子になってしまいました。中学の障がい児学級を卒業したばかり。4 月からは町田の丘学園高等部に通うことになっていました。

長男を失ってしまった私の頭の中は、とにかく真っ白で、ひたすら空っぽで……。

* * *

すべてが終わってしまったような感覚の中で、私は『つくしんぼ』を続けていかなければならない現実が嫌で嫌でたまりませんでした。だって、自分の子のために立ち上げた『つくしんぼ』に、他の子ばかりがいて、自分の子だけがないのです。そんな『つくしんぼ』になどいられるわけがありません。

長男が学校で父の日用に書いてくれたらしきメッセージが残っています。

おとうさんへ つくしんぼがんばってね
いつもありがとう ひろき (次ページの写真)

頑張らなければとは思ってみるものの、やっぱりダメでした。私は福祉を志して福祉の仕事をしていた

わけではありません。誰もやってくれる人がいないから、私は長男のために『つくしんぼ』を立ち上げ、とりあえず代表になっただけです。脚本家の仕事だって、施設運営との両立が難しいから辞めただけです。

そんな私が、長男もいなくなってしまうのに、なぜ『つくしんぼ』を続けなければならないのか???

悩みました。いえ、悩むなんて種類のものではありませんでした。心と体が完全に『つくしんぼ』を拒絶していました。

* * *

今でも時々思うのです。

長男のいなくなってしまうあの時、あのタイミングで『つくしんぼ』も『つくつく通信』もやめてしまえばよかったのかな、と……。

でも、結局やめることは出来ませんでした。私個人の事情だけでやめられるはずありません。長男の事故から2ヶ月後、6月にはNPO法人格も取得してしまったし、『つくしんぼ』に通ってくる子どもたちは相変わらず大勢いるし、『つくしんぼ』として給料を支払っている職員たちもいるわけだし……。

幸いにも、その職員たちが私に「つくしんぼにいてもいいから。しばらくの間どこか旅にでも行ってきたら?」と言ってくれたので、私は『つくしんぼ』から距離を置かせて貰うことができました。

旅には出ませんでした。自宅の自分の部屋に閉じこもり、自分のブログ上で宣言してしまった映画用の脚本執筆にひたすら集中し、『ぼくはうみがみたくなりました』のシナリオを書き上げました。

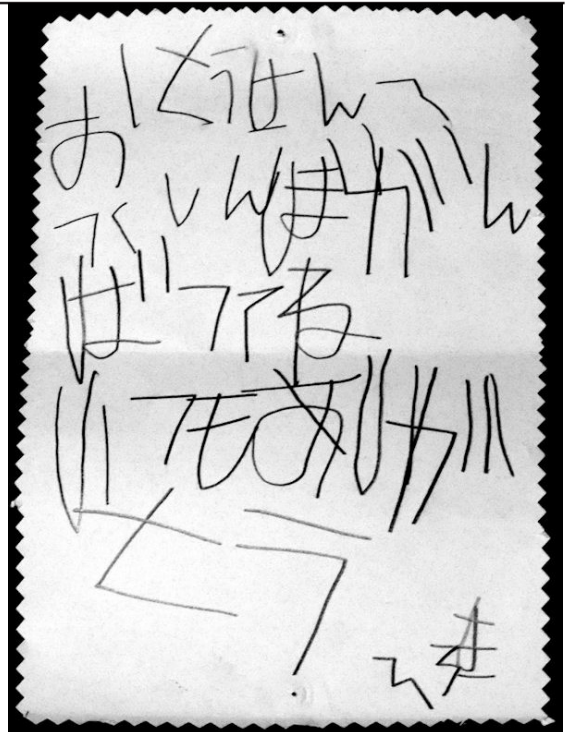
小説のときとは異なり、自閉症の主人公・淳一のセリフのほとんどすべてに亡き長男の口癖を盛り込みまくりました。長男のために私の出来る最後の仕事、この映画を完成させることだと決めて、映画製作だけに没頭し、『つくしんぼ』の活動は当時の職員達に任せました。

『つくつく通信』の78号は長男・ヒロキの特集号にさせて貰いました。そして、78号を発行した時に決めたことがありました。

通信は100号まで出してやめよう、と……。

* * *

長男の事故から6年。施設の立ち上げから16年目の去年のこと。『つくしんぼ』に次なる転機が訪れることになりました。東京都単独の福祉事業から児童発達支援事業&放課後等デイサービス事業へと法



内移行しなければならなくなったのです。

それまでも町田市障がい福祉課の担当さんから「児童デイサービスへと法内移行して欲しい」と繰り返し言われていました。でも私は「絶対に嫌だ!」と言い返していました。『つくつく通信』上でも“絶対に移行しない宣言”をし、福祉課の担当職員の悪口まで書いていました。(あの時はゴメンナサイ……)

だって本当に嫌だったのです。『つくしんぼ』は障がい児の放課後の遊び場です。屋根のある公園みたいなものです。そこへ子ども達が遊びに来るだけ。“単価制”なんて考え方自体が変です。市内の公園に遊びに来た子ども達の人数を数えて、人数単価で市役所の公園管理課の職員の給料決めてますか? してないでしょ? 一人いくらで収入合計しながら一喜一憂の施設運営なんて、私は絶対にしたくない!!

でも、東京都が決定した制度変更なので、どうにもなりません。相手が町田市であれば、まだ話し合いの余地もあるのですが……。

仕方なく気持ちを切り換え、移行を決意。細かい手続きを完了して法内移行したのが年度途中の去年の7月。児童発達支援事業所『おおぞら』+放課後等デイサービス事業所『つくしんぼ』の多機能型という変則的な形態を取り、それぞれの事業に施設長を置き、新規事業をスタートしました。

で、私はというと、移行のタイミングで『つくしんぼ』から抜けたかったのですが、児童発達支援管理責任者やらという役職の人間がいないと報酬額減になってしまうという現実があり、資格保有者が私一人しかいない状況だったため、とりあえず職員という立場を続けなければならない状況となり……。

* * *

昨年度は、移行のついでに認定 NPO も取得してしまおうと思い、動いてはみました。しかし、あまりに敷居が高過ぎることが判明し、結局取得を断念することに決めました。

でも、実はホッとしたというのが本音でした。もし認定 NPO 法人を取得してしまった場合、“毎年 100 人以上から 3000 円以上の寄付”というノルマが発生してしまうからです。そうすると、もう絶対『つくつく通信』を発行し続けてお願いを続けるしかありません。認定 NPO が無理だったから、通信を 100 号でおしまいにすることが出来るわけで……。

* * *

今回のこの 100 号の通信、実は去年度内の 3 月中に発行しようと思って書き始めていました。

ところが、私は何年か前から春と秋の季節変わりのタイミングで倒れてしまうという奇妙な病気を背負い込んでしまっていて、今春もまた体調不良で寝込んでしまい、結局発行が 2 ヶ月以上遅れてしまいました。体調を誤魔化しつつ、これからずっとつきあっていかなければならない病気らしいので、私が先頭をきって『つくしんぼ』を引っ張って行くのももう無理かなと思っています。

長男が亡くなって以来、“『つくしんぼ』と距離を置きたい”と思う私の気持ちもやっぱり変わってくれな

いみたいです。加えて自分の体調のこともあり、今年度からは私の仕事は NPO の理事長職だけにとどめる方向にしています。

他の福祉関係の仕事も、すべて一度辞めさせて貰うつもりでいます。

完全に離れることは難しいのかも知れませんが、とにかく一度“福祉”のことを考えないで済む環境に身を置きたい……。

法内事業に移行した『つくしんぼ』は、安定した収入も入るようになり、もう私でなくても運営は出来ます。誰も出来ないことだったから始めてみただけ。誰にでも出来ることは私がわざわざやる必要はない。やりたい人がやればいい。

私はまた、自分にしか出来ないことを考えてみます。若い頃から染みついている作家根性だけは相変わらず変わらなかったりしています。

* * *

『つくつく通信』。たかが通信。されど通信。私のこだわりでもあった通信です。

やめる時もこだわって、きちんとやめます。

長い間『つくつく通信』を愛読し続けてくださった皆様、ほんとありがとうございました。

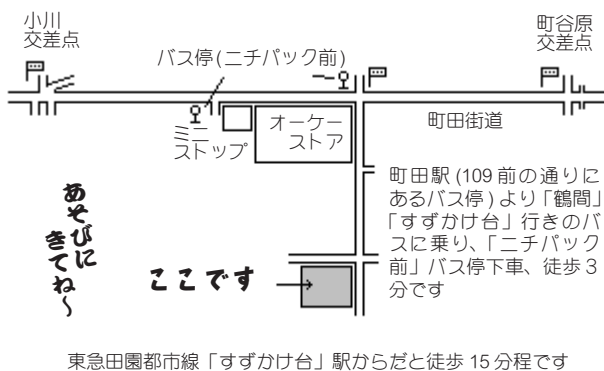
《おしまいでーす。おわりでーす。またこんど…》

映画の中で使った長男・ヒロキの口癖は、自分を納得させるときの合い言葉でした……。

(NPO 理事長 山下久仁明)



♪はらっぱの地図♪



はらっぱ(あおぞら&つくしんぼ) サポーターご支援 ありがとうございます

足かけ 17 年間、ずっとずっと超貧乏所帯だったつくしんぼへご支援を続けてくださった皆様、本当に本当にありがとうございました。

つくつく通信の発行は今号をもってひとまず休刊させていただきますが、施設の運営はこれからも継続していきます。

今後とも応援、よろしくお願い出来ましたら幸いです。

ご支援ありがとうございました
杉崎様、浅川様、鈴木様、川谷様、石橋様 (1月5月)